

中学生の自立した学習態度形成のための チューター制の可能性

鈴木稔子（名古屋大学大学院）

キーワード：中学生、自立した学習態度、学生チューター、学習の協同性

1. 研究の目的

教育現場では学習者の自立について語られることが多い。安彦（2006）は、学校教育は人格形成と学力形成を行う場であり、そこで行われる教育の目的は「子どもの自立」であると主張している。ベネッセ教育総合研究所が2014年10月に行った『小中学生の学びに関する実態調査 速報版』によると、親に言われなくても自分から勉強すると答えている中学生の割合は全体の約6割である。一方、勉強する理由として全体の約5割の生徒が「先生や親にしかられたくないから」と回答していることから、叱られたくないという消極的な理由から、あまり気がすすまないけれど学習に取り組んでいるという生徒の姿が浮かび上がってくる。このような学習態度は自立したものだとは言えない。本研究の目的は、授業外で学習支援にあたる大学生のチューターと中学生のやりとりから学習者の自立にかかわる要因を明らかにすることである。研究協力校で実践されている学生チューターによる学習支援の場でのチューターと中学生のやりとりを分析し、チューターの関与が中学生の自立した学習態度形成に寄与する可能性を明らかにしたい。

2. チューター制の概要

本研究が対象とするチューター制とは大学生による学習相談の場を指し、授業外に設定された日時に校内で実施されている。それは中学生が自主的に参加し、学習内容・方法等について必要に応じて大学生チューターから学習支援を受けられる場である。研究協力校の教師はチューター制の運営に携わるものの、学習支援の場で直接生徒とチューターの間には介入することはなく、チューターの背後で必要な助言を与えるという役割を担う。

3. 研究の方法

チューター制の場で行われているチューターと中学生のやりとりをICレコーダーに録音して逐語記録を作成する。チューターには学習相談の内容を記述してもらう。

1) 調査期間：2014年11月、2015年6月

2) 調査方法

チューターに登録している学生の中から、3名に「モニターチューター」として調査協力を依頼し、チューター経験4年目の学生1名に半構造化面接を行った。「モニターチューター」と中学生のやりとりの逐語記録と、チューターが記述した指導記録を分析の対象とした。

3) 分析の観点

チューターと生徒のやりとりは、「わからない」ことが「わかる」状態に向かっていく過程である。それは生徒の質問や学習上の援助要請と、それに対するチューターの応答によって構成されていることから、逐語記録とチューターが記述した指導記録をNewman(2007)の適応的援助要請の概念をもとに分析する。

4. 結果と考察

チューターが傍にいないことは生徒の質問を促すだけでなく、生徒が一人でも安心して学習に向かうことができるような雰囲気をつくりだしていることがわかった。さらに生徒が学習をすすめるうえで、チューターがひとつの手段として積極的に“使われる”場合があることから、生徒の行動はチューター制では、適応的援助要請に留まらないことがわかった。学習の課題が共有されて、共に課題解決に取り組んでいるときには、その過程に関わっている生徒・チューターが、それぞれの持つ発想や意見に良さを見出してそれらを共有して、互恵的な関係が成立していた。

チューター制は教師に準備・計画された学び合いの場ではなく、自然発生的な学習の場であり、そこに関わる生徒とチューターの学びの中に協同性が生まれていることを確認することができた。佐伯（2003）は、「対話を通して生徒はわかるための枠組みを修正したり変更したりするが、授業の中では対話が本当に生かされているかどうか」と授業における生徒の自立した学習に疑問を呈している。チューター制は時間の枠にとらわれずに、生徒がチューターとともに、わかるまで粘り強く考えることが保障される場であることがわかった。チューター制の場は、「本人がいきいきと学ぶ世界を、共同でつくり出していく作業」の場（佐伯、2003）である。

引用文献

- Newman, R.S. (2007). The Motivational Role of Adaptive Help Seeking in Self-Regulated Learning. In D. &. (Eds.), *Motivation and Self-Regulated Learning: Theory, Reserach, and Applications* (pp. 315-338). New York: Lawrence Erlbaum Associates.
- 安彦忠彦. (2006). 改訂版 教育課程編成論—学校は何を学ぶところか—. 放送大学教育振興会.
- 佐伯 胖. (2003). 「学ぶ」ということの意味. 岩波書店.
- ベネッセ総合研究所 (2014) 「小中学生の学びに関する実態調査速報版[2014]」
<http://berd.benesse.jp/shotouchutou/research/detail1.php?id=4340>